

逗入

NEC Express5800シリーズ

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明 します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読ん で、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと(2ページ)

本製品の特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプション とソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能に ついて説明しています。

導入にあたって(6ページ)

本製品をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄 や、参考となるアドバイスが記載されています。

お客様登録(12ページ)

お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。

セットアップ(13ページ)

本製品をお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

再セットアップ(48ページ)

ハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動できなくなった 場合にハードディスクドライブの内容を出荷時の状態に戻してから再セット アップする方法について説明しています。

応用セットアップ(69ページ)

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセット アップの方法について説明しています。

知っておきたいこと

本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいていただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。

<装置前面>



<装置背面>



特長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。



- リモートパワーオン機能
- ACリンク機能
- SATA2 (内蔵ハードディスクドライブ用) 対応
- 光ディスクドライブは購入時に選択可能な フリーセレクションタイプ



多彩なスリープ機能をサポート^{*1}(オプション ボードによっては機能しないものもある)

- オプションのグラフィックスアクセラレータ用 ・PCI 32-bit/33MHz/5Vインターフェース X2スロット(PCI #2,#3) ・PCI Express(x4) X1スロット(PCI #4) 最大4GB*2のメモリ (DIMM×4スロット) Microsoft Mindows XP Professionalの場合
- Microsoft Windows XP Professionalの場合 最大8GB^{*2}のメモリ(DIMM×4スロット) Microsoft Windows XP Professional x64 Edition/ Windows Vista Businessの場合

・PCI Express(x16) X1スロット(PCI #1)

• USB2.0対応

拡 張性

PCIバス X4スロット

- *1 Microsoft Windows XP Professional x64 Editionを使用し、
- 4GB以上のメモリを実装している場合は、休止状態は使用できません。
- *2 3GB程度しか認識されません。

本体管理

本製品のハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能/信頼性機能を提供しま す。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerAgent」により、システ ムの状態を統合的に管理することができます。本体の状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収 録されている「ESMPRO/ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コン ピュータからチェックすることができます。

ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下表のようになります。

機能名		可否	機能概要
ハードウェア		0	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
	メモリバンク	0	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
	装置情報	0	装置固有の情報を表示する機能です。
	CPU	0	CPU の物理的な情報を表示する機能です。
システム		0	CPU の論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
1/0 デバイス		0	I/O デバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアル ポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ) の情報参照をする機能です。
システム環境			温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能で す。
	温度	0	筐体内部の温度を監視する機能です。
	ファン	0	ファンを監視する機能です。
	電圧	0	筐体内部の電圧を監視する機能です。
	電源	Х	電源ユニットを監視する機能です。
	ドア	Х	Chassis Intrusion(筐体のカバー/ドアの開閉)を監視す る機能です。
	水冷ユニット	0	水冷ユニットの液漏れ、およびポンプ異常を監視する機能 です。
ソフトウェア		0	サービス、ドライバ、OS の情報を参照する機能です。
ネットワーク		0	ネットワーク (LAN) に関する情報参照やパケット監視を する機能です。
拡張バスデバイス		Х	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS		0	BIOS の情報を参照する機能です。
ローカルポーリング		0	エージェントが取得する任意の MIB 項目の値を監視する 機能です。
ストレージ		0	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム		0	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能で す。
ディスクアレイ		0	LSI 社製ディスクアレイコントローラ (N8103-73A/80/ 81) および、Promise 社製ディスクアレイコントローラを 監視する機能です。
			**
その他		X	Watch Dog Timer による OS ストール監視をする機能です。
		X	OS STOP エラー発生後の通報処理を行う機能です。

○: サポート △: 一部サポート X: 未サポート



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

- 内蔵のハードディスクドライブとDATなどのバックアップ装置機能を提供します。
 テープ装置へのデータのバックアップはWindows XP標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。
- オプションのRAIDコントローラと内蔵のハードディスクドライブによるディスク管理 機能を提供します。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を 高めることにつながるといえます。オプションのRAIDコントローラを使用することによ り、ハードディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を 防ぐとともにハードディスクドライブの稼働率を向上することができます。

本体のマザーボードには、シリアルATA(SATA)ハードディスクドライブを接続すること ができるチャネルを標準で持っています。また、このチャネルを制御するコントローラ によってRAID ドライブを構築することができます。コントローラがサポートしている RAIDレベルはRAID0とRAID1です。

コントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーション ユーティリティ「LSI Logic Software RAID Utility」を使用します。詳しくは「ハード ウェア編」を参照してください。

運用中の管理・保守はブラウザベースのユーティリティ「MegaRAID Storage Manager」 を使用します。使用方法については「ソフトウェア編」、またはオンラインドキュメント を参照してください。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。 停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因とな

る場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、 自動的にパッテリから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間 にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、 電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケ ジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。

ネットワーク管理

クライアント/サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ/ワークステーション、ルータ、ハブなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやハブの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムに本製品を導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめに本体、および添付品がすべてそろっていることを確認してください(添付の構成 品表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているものがあったときはお買い求 めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。また、システムを構築するために必 要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、本体の状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが 望まれます。

添付の「EXPRESSBUILDER[®]」CD-ROMには、本体、およびExpress5800シリーズ製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO[®]」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、本体に障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保 守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの 障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認してください。

パーティション構成について

<Windows Vistaの場合>

リカバリセットアップを実施するためには、32-bit用のWindows REパーティションが必要です。32-bit用のWindows REパーティションは購入時に作成されています。 Windows REパーティションについては、53ページを参照してください。



Windows RE パーティションを64-bit 化している場合、Windows RE パーティ ションがない場合はリカバリセットアップはできません。EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント 「Microsoft Windows Vista Business インストレーションサプリメントガイド」を参照しマニュアルセットアップを 実施してください。

<Windows XP x64 Edition/Windows XPの場合>

本装置では、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域(保守用パー ティション)が自動的に作成されます。





電源を入れる前に

本体をセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① <u>ハードウェアのセットアップ</u>

本体を箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケー ブル、電源コードの順で本体背面のコネクタに接続します。

> オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプション 重要 の取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレー ティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは 取り付けることをお勧めします。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入された本体には、すでに次のいずれかがインストールされています。

- Microsoft Windows Vista Business 日本語版 (Microsoft Windows Vista Business 32-bit(x86) Edition)
- Microsoft Windows XP Professional x64 Edition 日本語版
- Microsoft Windows XP Professional 日本語版

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できる ようになっています。詳しい手順は14ページで説明しています。

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシス テム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外には お勧めできません。

システムの修復(242ページ)を参照してください。

再セットアップ

<Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合>

Windows Vista 64-bit(x64) Editionを初めてご使用される場合、もしくはシステムの破損などが原因でWindows Vista 64-bit(x64) Editionを起動できなかった場合などに添付のパックアップDVD-ROMを使って再セットアップしてください。再セットアップの方法については、「Microsoft Windows Vista Businessインストレーションサプリメントガイド」でマニュアルセットアップとして説明しています。

<Windows Vista 32-bit (x86) Editionの場合>

システムの破損などが原因でWindows Vista 32-bit (x86) Editionを起動できなかった場 合などに添付のバックアップDVD-ROMを使って再セットアップしてください。再セッ トアップの方法については48ページで説明しています。オペレーティングシステムの セットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしない でください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してか ら行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。

<Windows XP Professional x64 Editionの場合>

システムの破損などが原因でWindows XP Professional x64 Editionを起動できなかっ た場合などに添付のバックアップCD-ROMを使って再セットアップしてください。再 セットアップの方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインド キュメント「Microsoft Windows XP Professional x64 Editionインストレーションサプ リメントガイド」でマニュアルセットアップとして説明しています。

<Windows XPの場合>

システムの破損などが原因でWindows XPを起動できなった場合などに添付のバック アップCD-ROMを使って再セットアップしてください。再セットアップの方法について は48ページで説明しています。オペレーティングシステムのセットアップが完了するま では、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業 は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモ リは取り付けることをお勧めします。

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクドライブなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタな どの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合 は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるように障害処理のためのセットアッ プをしてください。Windows Vista / Windows XP x64 Edition / Windwos XPに関しては、 本書で説明しています。



NEC では、ESMPRO の他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれる Express5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品 に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会 社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることがで きます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストール します(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールするこ とができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情 報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(イン ストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerは本 体にインストールして使用することもできます。



⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付の 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのユーティリティを使用して本体装置のシステム情報のパッ クアップをとります。

本体装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストア することで故障前と同じ状態で本製品を使用することができます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじ め確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。 ネットワークを経由して、他のシステムからの指示により本体の電源を投入(リモートパワー オン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」で「Wake On LAN/PME」を[Enabled] に設定します。

UPS接続時のポイント

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSから本体の電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用して本体の電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティ リティの「Server」メニューの「AC-LINK」を [Power On] に設定します。また、UPSを正 しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。

ストレージ機能構築のポイント

● ディスクアレイコントローラを使用する場合

MegaRAID Storage Managerをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア 編」の「MegaRAID Storage Manager」の説明に従ってMegaRAID Storage Manager をインストールしてください。

ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるために も、アレイディスクの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします(オンライン ドキュメント「MegaRAID Storage Managerユーザーズガイド」の「Check Consistency 機能」を参照してください)。

バックアップファイルシステムを使用する場合

本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続す ることができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切な データのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows XPバックアップツール
- ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec (シマンテック社)
- NetBackup(シマンテック社)

DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するように心がけてください。



NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添 付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送い ただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。

NEC ЕЎネスРС/РСサ-	-バ お客葉意録 - Microsoft Internet Explorer					
ファイル(E) 編集(E) 表示()) お気に入り(例) ツール(① ヘルプ(例)	1				
NEC ビジネスPC/PCサーバ お客様登録	NEC ビジネスPC/PCサーバ お客様登録					
<u>構入品一覧 サポート情報の番切)</u> 8番街トップページ	NEC PC サーバ(Express5800×リーズ)、ビジネスPC (Mate8VersaPro)をご購入いただき値にありがとうごさいます。 8番街では、お客様への新餐品のご案内や購入製品の効果的なご利用をサポートするためにお客様登録サービスを実施 しております。					
会員登録 ・お客様登録内容変更 ・メール配信設定	登録料無料にてご購入いただいた製品をご登録いただけますので、ぜひお申し込みください。 >>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>					
Everence59003 d1 - 7	ご登録いただくと、次の特典サービスを提供いたします。					
Club Express) ·新規購入品登録 ·别是体绍给你	Express5800シリーズを購入品登録いただいた方には・・・					
ビジネスPG (Mate&VersaPro)	₩6-57シニカル局合わせサービス Expressionのリイフス調整する基本時のホランニカル(商)、合わせに対応、応します。 なお、お問い合わせの対象につきましては一部時限がございます。詳しくは二些点ご覧ください。					
·新規購入品登録 ·製品情報後索	エクスプレス通貨サービス通貨ルイト電空 「エクスプレス通貨サービス」に加入いただいでいる場合、対象製品の通貨ルポートをリアルタイムにご確認、ただります。エクスプレス3 組サービスにごきましてはこ本点CODPをご覧ください。					
お客様登録ガイド ● <u>お客様登録板要</u> ・新規ユーザ登録	ビジネスPO(Mate&VersaPro)を購入登録いただいた方には・・・					
・ <u>ログイン</u> ・購入品登録 ●購入品登録情報一覧	ビジネスPO購入者何はノール配信サービス ご購入いただいたPOをより効果的にご判明的なための情報やサポード情報などを、メール配信いたします。詳しくは <u>こちら</u> をご覧ください。					
 ・ <u>テクニカル問い合わせ</u> ・ ・ エクスプレス通報サービス ・ ・ ・	ス 会員登録だけでも・・・					
・登録単込み ■BSLazd ・通報計況確認 ●EXPRESSBUILDER再発行	メール配信サービス ご個人品を何にご登録、地だかなくても、Express58000ソリーズ、ビジネスPCの最新情報を提供する70番組メールが認定は、応します。					
・ <u>会員規約</u> ・個人情報保護ポリシー	「新規登録・ログイン					
	新規会員登録の方 ◆ 会員登録 着みの方 ◆	>				

「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上 で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Express のインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになれるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は、「再セットアップ(48ページ)」を参照してください。



EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしているオプションボードは、以下にな ります。下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボードに添付の説明書と 「応用セットアップ」(69ページ)を参照してセットアップしてください。

<Windows Vistaの場合>

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているオプションボード
 - N8103-103 ディスクアレイコントローラ(SATA II)
- その他のオプション
 - N8103-95 SCSIコントローラ

<Windows XP x64 Edition / Windows XPの場合>

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているボード
 - N8103-103 ディスクアレイコントローラ(SATA II)
 - LSI Logic Embedded MegaRAIDTM(マザーボード上のコントローラを利用)
- その他のオプション
 - N8103-95 SCSIコントローラ

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

■● 内蔵デバイスは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取
 ■● り付けてください。

- 1. 本体に最も適した場所に設置する (→81ページ)。
- ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルを本体に接続する(→84ページ)。

プリンタなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了 重要 してから取り付けてください。

- 3. 添付の電源コードを本体と電源コンセントに接続する (→87ページ)。
- 4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

125ページを参照してください。



2 オペレーティングシステムのセットアップ

電源をONにして、お使いになれる状態になるまでを順を追って説明します。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でシステムを起動して、セットアップを始めます。

Microsoft Windows Vistaの場合

Microsoft Windows Vistaがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の 手順に従ってセットアップをしてください。



フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。

2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Windowsのセットアップ」画面 が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、セットアップを進 めてください。

- [ライセンス条項をお読みになってください]画面では、ライセンス条項の内容 を確認してください。
- [ユーザー名と画像の選択]画面では、ユーザー名やパスワードを入力し、ユー ザーアカウントで使用する画像を選択します。
- [コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください]画面では、コンピューター名を入力し、デスクトップの背景を選択します。
- [Windows を自動的に保護するよう設定してください]画面では、表示される 設定内容を確認し選択します。
- [時刻と日付の設定の確認]画面では、時刻と日付を正しく設定してください。
- [お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください]画面では、表示される設定内容を確認し選択します。
- [ありがとうございます]画面で[開始]をクリックする。

3. システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールします。ソフトウェアのセットアップに ついては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格 納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- Web-based Promise Array Manager

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に 進んでください。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionの場合

Microsoft Windows XP Professional x64 Edition がハードディスクドライブにインストー ル済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



- フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
- 2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Windows セットアップ ウィザードの開始」 画面が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリック してセットアップを進めてください。

- [ライセンス契約] 画面では、ライセンス契約の内容を確認してください。
- [ソフトウェアの個人設定] 画面では、名前や組織名を入力します。
- [コンピュータ名とAdministratorのパスワード] 画面では、コンピュータ名と Administratorのパスワード を入力してください。
- [日付と時刻の設定] 画面では、日付と時刻を正しく設定してください。
- [ネットワークの設定]画面では、ネットワークの設定を選択します。
- [ワークグループまたはドメイン名] 画面では、ドメインに参加させるか選択 します。

システムが再起動します。

3. 再起動後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールします。ソフトウェアのセットアップに ついては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格 納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- Web-based Promise Array Manager
- MegaRAID Storage Manager

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に 進んでください。



Microsoft Windows XP Professionalの場合

Microsoft Windows XP Professionalがハードディスクドライブにインストール済みのモデ ルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



- フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
- 2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Microsoft Windows へようこそ」 画面が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリック してセットアップを進めてください。

- [使用許諾契約] 画面では、使用許諾の内容を確認してください。
- [コンピュータを保護してください]画面では、自動更新を行うか選択します。
- [コンピュータに名前を付けてください] 画面では、コンピュータの名前や コンピュータにわかりやすい説明をつけることができます。
- [インターネットに接続する方法を指定してください。] 画面では、使うデバイスを選択します。
- [高速接続のセットアップを行います] 画面では、LAN接続をセットアップしてください。

- [Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?] 画面では、任意で ユーザー登録が可能です。
- [このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面では、このコン
 ピュータを使う各ユーザーの名前を入力してください。

[設定が完了しました]画面が表示されます。[完了]をクリックしてください。

3. 設定完了後、自動でシステムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップ については、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに 格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- Web-based Promise Array Manager
- MegaRAID Storage Manager

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に 進んでください。



デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付 の説明書を参照してください。

Microsoft Windows Vistaの場合

ディスクドライバ (IDE/SATA)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

(1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター] →[ネットワーク接続の管理]→[ローカルエリア接続]をダブルクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]を クリックする。
- 2. [構成]をクリックする。

[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスが表示 されます。

- 3. [詳細設定] タブをクリックし、[Speed & Duplex]をハブの設定値と同じ値に設 定する。
- [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスの [OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

[オプションのネットワークドライバの設定手順]

- (1) デバイスマネージャを起動する。
- (2) ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~]を ダブルクリックする。
- (3) [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定 と同じ値に設定する。
- (4) [Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~のプロパティ]ダイアログ ボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

● オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-111/112/119/120/121)を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

<Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合>

(N8104-111)のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥VISTA¥DL1¥PR0100¥WIN32]

(N8104-112/119/120/121)のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥VISTA¥DL1¥PR01000¥WIN32] <オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- [Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~]をダブルクリックする。
 ダイアログボックスが表示されます。
- [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
 [ドライバソフトウェアの更新 Intel(R) PRO/(1000 または 100)~]が表示されます。
- 4. [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索する(R)]をクリックする。
- 5. 検索するソフトウェアの欄に、

<Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合> (N8104-111)のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥VISTA¥DL1¥PR0100¥WIN32] (N8104-112/119/120/121)のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥VISTA¥DL1¥PR01000¥WIN32]

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。]画面が表示されます。

- 6. [閉じる]をクリックする。
- 7. システムを再起動する。

以上で完了です。

SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、グラフィックス アクセラレータドライバを『NEC8番街』http://nec8.comよりダウンロードしてドライ バをインストールしてください。

サウンドドライバ

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際は、システムのアップデートを行ってください)。

USB2.0ドライバ

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionの場合

● ディスクドライバ (IDE/SATA)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

 スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカル エリア接続]をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]を クリックする。
- 2. [構成]をクリックする。

[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスが表示 されます。

- 3. [詳細設定] タブをクリックし、[Speed & Duplex]をハブの設定値と同じ値に設 定する。
- [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスの [OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自 動的にインストールされます。

● オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-111/112/119/120/121)を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

[N8104-111]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XPAMD64¥DL1¥PR0100¥WINX64]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XPAMD64¥DL1¥PR01000¥WINX64]

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- 2. [イーサネットコントローラ]をダブルクリックする。

ダイアログボックスが表示されます。

- 3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。 [ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
- 4. [いいえ、今回は接続しません]を選択して、[次へ]をクリックする。
- 5. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリッ クする。
- 6. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェック を入れ、以下のどちらかを入力し[次へ]をクリックする。

[N8104-111]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XPAMD64¥DL1¥PR0100¥WINX64]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥DL1¥PR01000¥WINX64]

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると [ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- ー アダプタ詳細情報の確認
- ー ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れ た環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。この ような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする 場合は、以下の手順に従ってください。

- 1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- スタートメニューから [すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順にポイントし、 [エクスプローラ] をクリックする。
- 3. 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XPAMD64¥DL1¥PROSET¥WINX64」 ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。

- 4. [次へ]をクリックする。
- 5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
- セットアップオプションの画面が表示されるので、デフォルトのまま[次へ]をク リックする。
- インストール画面の[インストール]をクリックするとインストールが開始されます。

[InstallShield ウィザードを完了しました] ウィンドウが表示されます。

8. [完了] をクリックする。

9. システムを再起動する。

以上で完了です。

ドライパおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソー ルから管理者権限(Administrator等)でログインして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポート しておりません。

● AFT/ALBのセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されて いるアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行さ せるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグ ループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことに より、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。 AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。



- 1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
- チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
- 3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
- 4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
- 5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバ ランシング」、のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
- 6. 「完了」のボタンをクリックする。
- デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。

「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックしてください。

8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライ マリの設定)」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、[セカンダリの設定(S)]をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

● ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロ トコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレ スの設定を行ってください。

<PROSetがインストールされていない場合>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- ネットワークアダプタの(Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~)を ダブルクリックする。
- 3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定と 同じ値に設定する。
- 4. [Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~ のプロパティ]ダイアログ ボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- 2. ネットワークアダプタの(Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~)を ダブルクリックする。
- 3. [リンク]タブをクリックし、[速度とデュプレックス(S)]設定をハブの設定と同じ値 に設定する。
- 4. PROSetダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

● SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(CD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

サウンドドライバ

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

> システムのアップデート時にポップアップメニュー(ハードウェアの更新ウィ ザード)が出ることがありますが数秒で消えるので何も操作しないで下さい。 もし操作してしまった場合でもキャンセルを選択してください。

● USB2.0ドライバ

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

Microsoft Windows XP Professional の場合

ディスクドライバ(IDE/SATA)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

 スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカル エリア接続]をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]を クリックする。
- 2. [構成]をクリックする。

[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- 3. [詳細設定] タブをクリックし、[Speed & Duplex] をハブの設定値と同じ値に 設定する。
- [Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernetのプロパティ]ダイアログボックスの [OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-111/112/119/120/121)を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールして下さい。

[N8104-111]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥DL1¥PR0100¥WIN32]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥DL1¥PR01000¥WIN32] <オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- [イーサネットコントローラ]をダブルクリックする。
 ダイアログボックスが表示されます。
- [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
 [ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
- 4. [いいえ、今回は接続しません]を選択して、[次へ]をクリックする。
- 5. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、

[次へ]をクリックする。

6. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェック を入れ、以下のどちらかを入力し[次へ]をクリックする。

[N8104-111]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥DL1¥PR0100¥WIN32]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ [<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥DL1¥PR01000¥WIN32]

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると [ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れ た環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。この ような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする 場合は、以下の手順に従ってください。

- 1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- スタートメニューから [すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順にポイントし、 [エクスプローラ] をクリックする。
- 「<CD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥XP¥DL1¥PROSET¥WIN32」ディ レクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。

- 4. [次へ] をクリックする。
- 5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。

- セットアップオプションの画面が表示されるので、デフォルトのまま[次へ]をク リックする。
- インストール画面の[インストール]をクリックするとインストールが開始されます。

[InstallShield ウィザードを完了しました] ウィンドウが表示されます。

- 8. [完了] をクリックする。
- 9. システムを再起動する。

以上で完了です。



AFT/ALBのセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されて いるアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行さ せるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグ ループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことに より、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。 AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

- ▲ AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動し
 重要 た後に行う必要があります。
 - アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
 - アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチン グハブにのみ接続できます。
 - マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。
- 1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
- チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
- 3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
- 4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
- 5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバ ランシング」、のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
- 6. 「完了」のボタンをクリックする。
- 7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。

「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックしてください。

8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定)」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、[セカンダリの設定(S)]をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

● ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロ トコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレ スの設定を行ってください。

<PROSetがインストールされていない場合>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- ネットワークアダプタの(Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~)を ダブルクリックする。
- [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定と 同じ値に設定する。
- 4. [Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~ のプロパティ]ダイアログ ボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

- 1. デバイスマネージャを起動する。
- ネットワークアダプタの(Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~)を ダブルクリックする。
- [リンク]タブをクリックし、[速度とデュプレックス(S)]設定をハブの設定と同じ値 に設定する。
- 4. PROSetダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

● SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(CD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

サウンドドライバ

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

> システムのアップデート時にポップアップメニュー(ハードウェアの更新ウィ ザード)が出ることがありますが数秒で消えるので何も操作しないで下さい。
> もし操作してしまった場合でもキャンセルを選択してください。

● USB2.0ドライバ

サービスパック2以降を適用時のみ使用できます。USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

システムのアップデート(サービスパックの適用)

システムは、購入時に自動的に最新の状態にアップデートされますが、次のような場合には必ずアップデートし直してください。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合)
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

(サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスク(またはCD-ROM)を使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。)

Windows XP Professional の場合ではServicePack なし/1/1a は、サポートして おりません。ServicePack2以上を使用する必要があります。ServicePack2が 含まれたWindows XP CD-ROMを使用しインストールをされた場合は、再度 ServicePack2を適用する必要はありません。

アップデート手順

詳細なアップデート手順は、EXPRESSBUILDERに格納されている各OSのインストレーショ ンサプリメントガイドを参照してください。

3 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入したオプションの内蔵デバイスを取り付けてください。取り付け手順については、 ハードウェア編の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください.

デバイスドライバ等のインストール手順については、オプションに添付の説明書などを参照し てください。

■○ ここで取り付けたデバイスのモデル名やタイプ、取り付け位置をメモしておいてください。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、購入時の標準的なハードウェア構成に戻してから作業を始める必要があります。購入時のセットアップを完了した後に取り付けたデバイスは、取り外さなければいけません。

別売のネットワークケーブルで本装置をネットワークに接続してください。キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外の外付けデバイスがある場合は、それらのデバイスも併せて接続してください。

本体のコネクタ位置についてはハードウェア編の「各部の名称と機能」を参照してください。

4 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

└── Windows XPでの説明では、表示方法が以下のように設定されている時の手順 └── を記載しています。

- [タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ]の[[スタート]メニュー] タブで [[スタート] メニュー] が選択されている。
- フォルダーオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択 されている。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。次の手順に従って設定します。



Windows Vistaの場合

1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。

[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

2. [コントロールパネル]ウィンドウから[システムとメンテナンス]をクリックする。



3. [システム] をクリックする。

[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

4. [システムの詳細設定]をクリックする。



5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK] をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

成定のオペレーティング システム(5)	
Windows Vista	
☑ オペレーティング システムの一覧を表示する時間(T):	30 🔶 秒間
□ 必要なときに修復オブションを表示する時間(D):	30 🔶 秒間
パステム エラー	
☑ システム ログにイベントを書き込む(W)	
📝 自動的に再起動する(R)	
デバッグ情報の書き込み	
完全\FI が/プ ▼	
ダンプ ファイル:	
D:¥MEMORY.DMP	
OK	キャンセル

₩

Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。
 その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB以上の空き容量のあるド ライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設 前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してく ださい。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダン プ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ド ライブの空き容量を確認してください。

Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB以上(メモリサイズが 2GBを超える場合は、2048MB+300MB以上)の空き容量のあるドラ イブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設 前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してく ださい。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダン プ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ド ライブの空き容量を確認してください。

「パフォーマンス」ボックスの[設定]をクリックする。
 「パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。

パフォーマンフ 🔍
視覚効が、詳細設定「データ実行防止」
コンピュータの Window のデザインとパフォーマンスに使う設定を選択してくださ い。 ・ コンピュースにならして最適なものを自動的に選択する(L) ・ デザインを優先する(B) ・ パフォーマンスを優先する(P) ・ カスタム(C):
 ✓ Windows 内のアニメーション コントロールと要素 アイコンのかわりに縮小板を表示する ウィンドウとボタンに視覚スタイルを使用する ウィンドウを最大化や最小化せるときにアニメーションで表示する コンボ ボックスをスライドして開く スカリーン フォントの緒を消らかにする ダスク バーボタンを入うイドする デスクトップ コンボジョンを有効にする デスクトップのアイコン名に影を付ける ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する ヒントをフェード表とはスライドで表示する ヒントをフェード表をはスライドで表示する
OK キャンセル 適用(A)

9. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



10. [各ドライブのページングファイルのサイズ] ボックスの [初期サイズ] を推奨値 以上に変更し、[設定] をクリックする。

ドライブ レボリューム ラベ	ル](D) ページング ファイル(Dサイズ (MB)
0: D:	1147 - 229 なし	4
E: F:	なし なし	
	1999 F.	
矍択したドライブ: ☆★◇54#	C:	
) ከአቃፊ サイズ(C)		
初期サイズ (MB)(I):	1147	
最大サイズ (MB)(X):	2294	
🖱 ページング ファイルな	J(N)	設定(S)
べてのドライブの総ペー	ジング ファイル サイズ	
最小限:	16 MB	$\mathbf{\times}$
推奨:	1147 MB	
損左の割的当て・	1147 MB	



11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。 メッセージに従って再起動してください。

Windows XP の場合

- スタートメニューから [コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- [コントロールパネル] ウィンドウから [パフォーマンスとメンテナンス] をク リックする。



3. [システム] をクリックする。

[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

- 4. [詳細設定] タブをクリックする。
- 5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。

୬ステムのプロパティ 🔗 🛛
全般 コンピュータ名 ハードウェ 詳細設定 ステムの復元 自動更新 リモート
Administrator としてログオンした。 い場合は、こうたのほとんどの変更はできません。
視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ
設定⑤
- ユーザー プロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定
起動と回復
システム記動、システム障害、およびデバッグ情報
環境変数(<u>W</u>) エラー報告(<u>R</u>)
OK キャンセル 適用(A)
テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK] をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

重要

起動と回復 🦳 💦 🔀
起動システム 既定のオペレーティング システム(S):
Microsoft Windows XP Professional / Jastdetect ● マオペレーティング システムの一覧を表示する時間(①): 30 ◆ 秒間 ・必要なときに修復オブションを表示する時間(①): 30 ◆ 秒間 おもかのようにいっしょくしょうものが信仰する(1) 30 ◆ 秒間
はまた。 「編集」をシリック: 「編集」をシリック: システム エラー 「システム ログにイベントを書き込む(例)
 ・ ・
宗全 √∓川 がップ ダンブ ファイル: D¥MEMORY.DMP
OK メキンケル
×

Windows XP Professional x64 Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上の空き容量のあるドライ ブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

Windows XP Professionalの場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。
 その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GB を超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを 指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

[パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
 [パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。

ͽステムのプロパティ 🛛 💽 🔀
全般 コンピュータ名 ハードウェア 詳細設定 システムの復元 自動更新 リモート
Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどの変更はできません。
視覚効果、プロセッサの人ケシュール、メモリ使用、および仮想メモリ
設定の
ユーザー プロファイル
ロクオンに関連したテスクトップ設定
設定低
起動と回復
システム起動、システム障害、およびテバック情報
設定①
環境変数(N) エラー報告(R)
OK キャンセル 適用(A)

8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。

1	パフォーマンファーマンファーマンファーマンファーマンファーマンファーマンファーマンファ
	視覚効! 詳細設定
	コンピュータの Window のデザインとパフォーマンスに使う設定を選択してください。
	◎コンピン んに応じて最適なものを自動的に選択する(1)
	○ デザインを優先する(B)
	○パフォーマンスを優先する(P)
	○カスタム(<u>©</u>):
	 ✓ ウィンドウとポタンに視覚スタイルを使用する ✓ ウィンドウと最大化や最小化するときにアニメーションで表示する ✓ コンボ ボックスをうろくドして間 ✓ スクリーン フォントの縁を滑らかにする Ø 女スク バー ボタンをスライドする Ø デスクトップのアイコン名に影を付ける Ø ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する
	✓ ビントをフェードまたはスライドで表示する
	 ✓ フォルタでよく使用するタ人クを使用する ✓ マウス ポインタの下に影を表示する
	OK キャンセル 適用(A)

9. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



10. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの [初期サイズ] を推 奨値以上に変更し、[設定] をクリックする。

仮想メモリ		? 🛛
ドライブ 「ボリューム ラベ C:	0 ₩](<u>D</u>) ページ)	ンヴ ファイルのサイズ(MB) 756 - 1512
ご選択したドライブのペードライブ・ ドライブ: 空き箱は・	-ジング ファイル サイズ C: 34752 MB	·
● カスタム サイズ(©) 初期サイズ (MB)Φ: 最大サイズ (MB)⊗	756 1512	\supset
○ ジスノム E→王 ジイノ ○ ページング ファイル	へい なし(N)	設定(5)
- すべてのドライブの総べ 最小限: 推奨: 現在の割り当て:	ージング ファイル サイ 2 MB 754 MB 756 MB	χ
		OK キャンセル



11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。 メッセージに従って再起動してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

● Windows Vista Businessの場合

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録した ファイルです。

アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝える ポップアップを 終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

- タスクバー上の空いている場所を右クリックして [タスク マネージャ]をクリック するか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押下して [タスク マネージャ]を起動 する。
- 2. [プロセス] タブをクリックする。
- ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプ ファイルの作成] をクリックする。
- 4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

C:¥Users¥(ユーザー名)¥AppData¥Local¥Temp

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記4.のフォルダより取得してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法の詳細は、以下のMicrosoft社のサポート技術 情報を参照してください。

「Windows Vistaでユーザーモード プロセス ダンプを取得する方法」 http://support.microsoft.com/kb/931673/ja

Windows Vista Businessでは、ワトソン博士は[問題のレポートと解決策]に変更されており、従来のワトソン博士によるクラッシュダンプファイルを取得することができません。クラッシュダンプファイルと同等レベルの情報は、上記の方法で取得できます。

Windows XP Professional の場合(ワトソン博士の設定)

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを 検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できる よう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックする。

2. [名前] ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK] をクリックする。

ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

ファイル名を	指定して実行	<u>?</u> ×
<u> </u>	実行したいアブリケーション名、または開きたいフォルダやドキュ 名、インターネットリソース名を入力してください。	メント
名前(<u>O</u>):	Jdrwtsn32.exe	•
	OK キャンセル 参照((<u>B</u>)

3. [ログファイルパス] ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

- 5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
 - ー ダンプシンボルテーブル
 - すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - 既存のログファイルに追加
 - ー クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

5 管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本体監視用の「ESMPRO/ServerAgent」およ び本体管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリ ティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。 詳細については、第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

6 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、EXPRESSBUILDERを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

- 1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
- [EXPRESSBUILDER] CD-ROMを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

- 3. [ツール] ー [システム情報の管理] を選択する。
- 4. [システム情報の管理]から [退避]を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

7 リカバリファイルの退避

本製品では、購入時の状態に戻したりシステムを修復する環境としてWinRE(Windows Recovery Environment)パーティションをハードディスクに用意しています。運用中にハー ドディスクが故障すると、WinRE パーティションが修復できなくなりますので、必ず「リカ パリファイルの退避」を実施してください。

リカバリファイルの退避手順

リカバリファイルの退避手順は2通りあります。

- ー バックアップDVD-ROM を使用する場合
- WinRE パーティションを使用する場合

[バックアップDVD-ROMを使用する場合]

- 1. 本体の電源をONにする。
- 2. バックアップDVD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- バックアップDVD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> +
 Comparison C
- 4. 画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されたら、 <Enter>キーを押す。
- 5. [Windowsのインストール]画面が表示されたら、<Shift>キー+<F10>キーを押 す。
- 6. 次のコマンドラインを実行する。

x:¥sources¥recovery¥recenv (.exe)

<本体の起動用ハードディスクドライブをディスクアレイコントローラに、接続している場合> :手順 7 へ

<本体の起動用ハードディスクドライブをディスクアレイコントローラに、接続していない場合> : 手順13へ

- 7. [システム回復オプション]画面で、キーボードレイアウトの項目が日本語になって いることを確認し[次へ]をクリックする。
- 8. [システム回復オプション]画面で、[ドライバの読み込み]をクリックする。

9. 次のメッセージが表示されるので、バックアップDVD-ROMまたはWindows Vista DVD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。

光ディスクドライブに EXPRESSBUILDER CD-ROMをセットし[OK]をクリックする。

ドライバの追加	
デバイスのインストールメディ ドライバを選択してください。	[,] アを挿入し、[OK]をクリックして
[OK]	[キャンセル]

10. [ファイルを開く]画面で、[ファイルの場所]で参照先を指定する。

<光ディスクドライブのドライブレター>:¥WINNT¥OEMFD¥VISTA¥FD1

- 11. 必要なドライバを選択し、[開く]をクリックする。
 - N8103-103の場合:「ST8350」
- 12. [ドライバの追加]画面が表示されたら、[ドライバの追加]をクリックする。
- 13. [システム回復オプション]画面で[次へ]を選択する。
- 14. [システム回復オプションメニュー]画面から「リカバリセットアップメニュー」を 選択する。
- 15. [リカバリセットアップメニュー]画面から「リカバリファイルの退避」を選択し、 [次へ]をクリックする。
- 16. 次のメッセージが表示されるので[はい]をクリックする。

17. リカバリファイルの退避先を選択する。

保存する場所(D):	בשעם 👰	-9	- +	€ 🕍 💷▼	
名前	種類	合計サイズ	空き領域		-
ハードディス	クドライブ (1)		~	121
-0	カル ディスク	(C:)			1
空き	領域 13.6 GB/	/19.9 GB			
リムーバブル	記憶域があるう	デバイス (2)			Ŧ

- リカバリファイルを格納するためには、4GB以上の空き領域が必要になります。
 「X」および「R」ドライブは指定できません。
 リカバリファイル名は変更できません。
 退避先フォルダ名に「半角スペース」は含めないでください。
- 18. 次のメッセージが表示されるので[OK]をクリックする。

- 19. システム回復オプションメニューから[再起動]を選択し再起動する。
- 20. Windows Vistaにログオンする。
- 21. ライティングソフトを使用して、退避したリカバリファイル (winpe.wim, recover.win)を DVDメディアに保存する。

[WinREパーティションを使用する場合]

- 1. 本体の電源をONにする。
- 2. NECのロゴマークが表示されたら、<F8>キーを押す。
- 3. [詳細ブートオプション]画面から[コンピュータの修復]を選択する。
- 4. [システム回復オプション]画面で[次へ]を選択する。
- 5. アカウント名とパスワードを入力して[次へ]を選択する。

- [システム回復オプションメニュー]画面から「リカバリセットアップメニュー」を 選択する。
- [リカバリセットアップメニュー]画面から「リカバリファイルの退避」を選択し、
 [次へ]をクリックする。
- 8. 次のメッセージが表示されるので[はい]をクリックする。

9. リカバリファイルの退避先を選択する。

保存する場所(I):	בשעם 🌉	-9	-	🗈 🔐 📰 🔻	
名前	種類	合計サイズ	空き領域		-
ハードディス	ク ドライブ (1	l) —		^	111
	カル ディスク	(C:)			_
No. 10		10.0 CB			
エロ	現物 13.0 GD/	19.9 GD			
ファイル名(1):	winre	7(1,2)		(保存(<u>S</u>)	
					_

- 「X」および「R」ドライブは指定できません。
- リカバリファイル名は変更できません。
- 退避先フォルダ名に「半角スペース」は含めないでください。

10. 次のメッセージが表示されるので[OK]をクリックする。

- 11. システム回復オプションメニューから[再起動]を選択し再起動する。
- 12. Windows Vistaにログオンする。
- 13. ライティングソフトを使用して、退避したリカバリファイル (winpe.wim, recover.win)を DVDメディアに保存する。

リカバリファイルについて

次の場合にWinREパーティションの構築が必要になります。 WinREパーティションを構築する際にリカバリファイルを使用しますので、大切に保管して ください。

- 運用中のハードディスクが故障した場合
- ハードディスクをフォーマットした場合
- ハードディスクをダイナミックディスクからベーシックディスクにした場合 など

再セットアップ

ここでは、各OSを再セットアップする方法について説明します。

再セットアップ可能なOSについて

再セットアップできるオペレーティングシステムは、それまで使用していたオペレーティングシステムです。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。

Windows Vista 32-bit (x86) Edition とWindows Vista 64-bit(x64) Edition はライ センスが共通のため、Windows Vista 64-bit(x64) EditionからWindows Vista 32bit (x86) Editionに変更する場合、もしくはWindows Vista 32-bit (x86) Editionか らWindows Vista 64-bit(x64) Editionに変更する場合は別途オペレーティング システムを購入する必要はありません。

再セットアップ方法

<Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合>

マニュアルセットアップ

Windows Vista 64-bit(x64) Editionの再セットアップは「マニュアルセットアップ」を 使用します。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されている オンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Businessインストレーションサプ リメントガイド」で説明しています。

<Windows Vista 32-bit (x86) Editionの場合>

● リカバリセットアップ

「リカバリセットアップ」を使用すると、購入時の状態に戻すことができます。購入時の 状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。「リカバ リセットアップ」の詳細は、49ページで説明しています。

マニュアルセットアップ

Windows Vista 32-bit (x86) Editionの再セットアップは「マニュアルセットアップ」で も可能です。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されている オンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Businessインストレーションサプ リメントガイド」で説明しています。

<Windows XP Professional x64 Editionの場合>

マニュアルセットアップ

Windows XP x64 Editionの再セットアップは「マニュアルセットアップ」を使用します。 マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインド キュメント「Microsoft Windows XP Professional x64 Editionインストレーションサプ リメントガイド」で説明しています。

<Windows XPの場合>

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」を使用すると、RAIDの設定から、オペレーティングシステム(Windows XP)、各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく(シームレスで)セットアップできます。購入時の状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。「シームレスセットアップ」の詳細は、56ページで説明しています。

• マニュアルセットアップ

Windows XPの再セットアップは「マニュアルセットアップ」でも可能です。マニュア ルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメン ト「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド」で 説明しています。

リカバリセットアップ

「リカバリセットアップ」を使用すると、購入時の状態に戻すことができます。また、購入時の状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。

注意事項

「リカバリセットアップ」をはじめる前に、ここで説明する注意事項をよくお読みください。

Windows ファミリについて

リカバリセットアップでインストール可能なエディションは、Microsoft[®] Windows VistaTM Business日本語版(以降、「Windows Vista」と呼ぶ)です。その他のOSのセットアップ方 法については48ページを参照してください。

BIOSの設定について

Windows Vistaをインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。 BIOSの設定については125ページを参照してください。

MOの接続について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイル システムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった 場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

セットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションサイズは、計算式から求めることができます。詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Businessインストレーションサプリメントガイド」の「注意事項」にある「作成するパーティションサイズについて」項を参照してください。

ダイナミックディスクへの再セットアップについて

- ダイナミックディスクに直接Windows Vistaを再セットアップすることはできません。
 必ずペーシックディスクに戻して再セットアップを行ってください。また、このときの
 再セットアップでは、リカバリセットアップは使用できません。マニュアルセットアップを実施してください。
- ダイナミックディスクをベーシックディスクに戻すと、既存のパーティションはすべて 削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。また、WinRE パーティションも削除されますので、必ず事前にリカバリファイルを退避してください。。

ダイナミックディスクをベーシックディスクに戻すには、次の手順を実行してください。

- 1. 本体の電源をON にする。
- 2. バックアップDVD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- バックアップDVD-ROMをセットしたら、リセットする (<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本体を再起動す る。
- 4. 画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されたら、 <Enter>キーを押す。
- 5. [Windowsのインストール]画面が表示されたら、<Shift>キー+<F10>キーを押 す。

コマンドプロンプトが起動します。

<本体の起動用ハードディスクドライブをディスクアレイコントローラに、接続して いる場合>

: 手順 6 へ

<本体の起動用ハードディスクドライブをディスクアレイコントローラに、接続していない場合>

:手順15へ

6. 次のコマンドラインを実行する。

x:¥sources¥recovery¥recenv (.exe)

- [システム回復オプション]画面で、キーボードレイアウトの項目が日本語になっていることを確認し[次へ]をクリックする。
- 8. [システム回復オプション]画面で、[ドライバの読み込み]をクリックする。
- 9. 次のメッセージが表示されるので、バックアップDVD-ROMまたはWindows Vista DVD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。

光ディスクドライブに EXPRESSBUILDER CD-ROMをセットし[OK]をクリックす る。

ドライバの追加	
デバイスのインストールメディ ドライバを選択してください。	rアを挿入し、[OK]をクリックして
[OK]	[キャンセル]

10. [ファイルを開く]画面で、[ファイルの場所]で参照先を指定する。

<Windows Vista 64-bit(x64) Edition> <光ディスクドライブのドライブレター >:¥WINNT¥OEMFD¥VISTAX64¥FD1

<Windows Vista 32-bit(x86) Edition> <光ディスクドライブのドライブレター >:¥WINNT¥OEMFD¥VISTA¥FD1

11. 必要なドライバを選択し、[開く]をクリックする。

- N8103-103の場合:「ST8350」

- 12. [ドライバの追加]画面が表示されたら、[ドライバの追加]をクリックする。
- 13. [システム回復オプション]画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。
- 14. [システム回復オプションメニュー]画面から、[コマンドプロンプト]をクリックする。
- 15. 次のコマンドラインを実行する。

diskpart

Diskpart ユーティリティが起動します。

16. 次のコマンドラインを実行する。

list disk

使用可能なハードディスク一覧が表示されます。この時、対象となるハードディス クの番号を確認してください。

17. 次のコマンドラインを実行する。

sel disk number

18. 次のコマンドラインを実行する。

det disk

指定したハードディスク上のパーティション一覧が表示されます。指定したディス クが正しく選択されていることを確認してください。

19. 次のコマンドラインを実行する。

clean all

ディスク上のすべてのパーティションとすべてのデータが完全に削除されます。

20. 終了メッセージが表示されたら、次のコマンドラインを実行する。

exit

Diskpartユーティリティを終了します。

21. 次のコマンドラインを実行する。

Wpeutil Reboot

再起動します。

バックアップについて

「バックアップと復元センター」の「コンピュータ全体の復元」を実施する場合、次の組み合わせでは使用できません。システムとバックアップのディスクタイプが異なる場合は、バックアップDVD から起動し、システム回復オプションメニューから「Windows Complete PC 復元」を選択してください。

システム	バックアップ
ベーシックディスク	ダイナミックディスク
ダイナミックディスク	ベーシックディスク

Windows REパーティションについて

リカバリセットアップを実施するためには、32-bit用のWindows REパーティションが必要です。32-bit用のWindows REパーティションは購入時に作成されています。

Windows REパーティションを64-bit化している場合、Windows REパーティ ションがない場合はリカバリセットアップはできません。EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Business インストレーションサプリメントガイド」を参照しマニュアルセットアップを 実施してください。

リカバリセットアップの手順

- 1. 本体の電源をONにする。
- 2. NECのロゴマークが表示されたら、<F8>キーを押す。
- 3. [詳細ブートオプション]画面から[コンピュータの修復]を選択する。
- 4. [システム回復オプション]画面で[次へ]を選択する。
- 5. アカウント名とパスワードを入力して[次へ]を選択する。

- 6. [システム回復オプションメニュー]画面から「リカバリセットアップメニュー」を 選択する。
- [リカバリセットアップメニュー]画面から「リカバリセットアップ」を選択し、[次へ]を選択する。
- 8. [リカバリセットアップについてのご案内]画面が表示されたら注意事項を熟読後、[次へ]をクリックする。

リカハリセットアップについてはじめに	
NEC Express5800シリーズをご購入いただきありがとうございます。 以下の注意をよくお読みになり、セットアップを開始してください。	•
≪注意≫ ・セットアップ中は指示がない限り途中で中断しないでください。 もし中断した場合は、再セットアップが必要な場合があります。	
 ・本装置ご購入後にボードや周辺機器を増設した場合は、この説明画面を 終了して増設したボードや周辺機器を取り外してからセットアップを行ってください。 	
・セットアップの途中で画面が止まっているように見えることがあっても、 正常に動作していますので、電源を切らないでください。	
■けれパリヤットマップとけ	¥

9. [リカバリ方法の選択]画面でシステムパーティションを新規に作成するか、既存の ものを使用するかを選択する。

	現在のバーティション構成
	X:4096MB C:20480MB 空き領域:202735MB
	▼ ※ バーティション X:は回復オブショ ン用のパーティションです
	 ○ 既存のバーティションを使用する ○ 新規にバーティションを作成する
1	上記設定で実行する キャンセル

「既存のパーティションを使用する」場合は、手順11.へ 「新規にパーティションを作成する」場合は、手順10.へ

第二時の状態からパーティションサイズを変更したい場合は「新規にパーティションを作成する」を選択してください。

パーティションサイズを変更しない場合は「既存のパーティションを使用する」を 選択してください。

10. [新規パーティションの作成]画面が表示されたら、システムパーティションのサイ ズを入力し、[上記設定で実行する]をクリックする。

システィ	ムバーティションのサイズを入力してください
	現在のバーティンヨン構成
	X:4096MB 空き領域 :205215MB
	※ バーティション X-は回復オブショ ン用のパーティションです
	20480 MB
	1-0-00 IVID
最小:10,804MB~ 空き領域全てを使用	空き領域:205,215MBの間でパーティションサイズを入力してください してパーティションを作成する場合は * を入力してください
	上記設定で実行する
TO HAVE COON.	上記設定で実行する

[リカバリセットアップの終了]画面が表示されたら、[シャットダウン]または[再起動]を選択し終了する。

リカバリセットアップの終了	
	4
リカバリセットアップが終了しました。	
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
装置の電源をOFFにするには[シャットダウン]ボタンを	
押し(ください。 そのまま面記動する場合(1)面記動)ボタッを押してくだ	
さい。	
シャットダウン	
	-

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」は、RAIDの設定から、オペレーティングシステム(Windows XP)、 各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく(シームレスで)セットアップできる方 法です。ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合 や、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

Windowsファミリについて

Windows XPファミリのうち、シームレスセットアップでインストール可能なエディションは、 Microsoft[®] Windows[®] XP Professional日本語版(以降、「Windows XP」と呼ぶ)です。

その他のOSをインストールするときは、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

BIOSの設定について

Windows XPをインストールする前にハードウェアのBIOS 設定などを確認してください。 BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能(USBインタフェースへの対応 など)に関する設定項目があります。125ページを参照して設定してください。

本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・ プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません。

Windows XPについて

Windows XPは、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について 注意してください。

•	インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ (BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
•	弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストール に関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについ ては、本書の説明を参照してください。
•	シームレスセットアップを完了した後に31ページを参照して「メモリ ダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
•	シームレスセットアップでは、ステップ バイ ステップ インタラクティ ブは自動でインストールされません。
	•

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイル システムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった 場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでく ださい。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

[Windows XP Professionalの場合]

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイパネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 2700MB ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB ハイバネーション用サイズ = 搭載メモリサイズ アプリケーションサイズ = 任意

 ・ 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。 ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
 ・ 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
 ・ 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。
 ・ その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプ

リケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

2700MB + (512MB × 1.5) + 512MB + 12MB + 512MB + アプリケーションサ イズ= 4504MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを 増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスク に割り当てることで解決できます。

- 1. 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
- 2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストー ルに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディ スクを増設してください。

サービスパックの適用について

Express5800シリーズでは、サービスパックを適用することができます。本体に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] http://nec8.com/

ダイナミックディスクヘアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティショ ンを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている オンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメ ントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関す る注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「EISA構成」と表示されている領域について)

ディスク領域に「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユー ティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

📙 コンピュータの管理					_ \
ファイル() 操作(A) 表示(V) (* *) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*) (*)	ウインドウW ヘルブ(出 一 デ 一 に) ・ (C)		55 ME 正常	B (EISA 構成)	
CEC- (V(V)-)-VE	マンファク ペーシック 16.93 GB オンライン 全 CD-ROM (D:) メディアなし	55 MB 正常 (EI	(C:) 00 GB NTFS E常 (システム)	887 GB 未割り当て	
	_■ 未割り当て ■ プライ	イマリ パーティシ	e)		

セットアップの流れ

シームレスセットアップは、次のような流れで進みます。

セットアップの手順

シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。この とき、各パラメータを一つのファイル(パラメータファイル)としてフロッピーディスクへ保存 することも可能です。

- OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクド ライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
- OSをインストールするハードディスクドライブに論理ドライブを複数 作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セット アップ手順」(71ページ)を参照してください。
- 2. 本装置の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」 CD-ROMをセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押 す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ] をクリックする。

EXPRESSBUILDER	•
ドームレスセッ 日本 中国スセットで 「国気を5777」 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本 「日本	トアップ」(は、RAIDの設定から、 (リティのインストールまでを エレスで) セットアップできる 連入時の状態と異なる、(ーティ する場合や Go を再インストール エムノスセットアップを使用して さといたアップををご構成が代

 「パラメータファイルを使用してセットアップを進めますか?」というメッセージ が表示されます。

パラメータファイルを使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」を 選択してください。

パラメータファイルを使用し	ってセットアップを進めますか?
いいえ	はい

6. シームレスセットアップでの注意事項が表示されます。

表示内容をよく読んでから「確認」をクリックしてください。

セットアップを進めると、自動的に何回かコンピュータが再起動しますが、 EXPRESSBUILDER CD-ROM、セットアップバラメータFDは、指示があるまで 取り出さないでください。
確認

パラメータファイルを使用する場合はセットアップパラメータFDが要求されます。
 フロッピーディスクをセットして「確認」を選択してください。

パラメータファイルを使用しない場合は、このメッセージは表示されません。手順 8.へ進んでください。

セットアップバラメータFDを挿入してください。		
確認	戻る	

[既存のパラメータファイルを使用する場合]

セットしたフロッピーディスク内のパラメータファイルの一覧が表示されます。

(1) インストールに使用するパラメータファイルを選択し、[確定]をクリックする。

確認のダイアログボックスがあらわれます。

ファイル名:(A) test1.tre test2.tre test3.tre 可能込

(2) パラメータを確認する場合は[確認]を、確認せずにそのままインストールする 場合は、[スキップ]をクリックする。

[確認]をクリック→手順8.へ進む

[スキップ]をクリック→手順9.のあと手順11.へ進む

[空きフロッピーディスクをセットした場合]

(1) [ファイル名:(A)]の下にあるボックスをクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

情報ファイル選択/入力	
ファイル名:(A)	
N	日戻る
	再読込
	▼

(2) ファイル名を入力し、[確定]をクリックする。

8. ディスクアレイコントローラのパラメータを設定する。

オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、[アレイディスク の設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[終 了]をクリックしてください。

設定が終了すると、自動的にRAIDの構築、保守用のパーティションの作成、および 各種ユーティリティのインストールが実行されます。

する
既存RAIDを使用する
•••
■読込 [終了] [407°]

9. インストールするオペレーティングシステムを選択する。

リストボックスから[Windows]を選択します。

オペレーティングシステムインストールメニュー	
Windows その他 終了	

10. 次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行って から[次へ]をクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示 が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]をクリックして設定を確認しなが ら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

対象マシン	Express5800/xxx
OSの種類	Windows XP Professional
OSの言語	日本語
パーティションの使用方法	新規に作成する
パーティションサイズ(全領域=*)	8192
ファイルシステムの NTFSへのコンバート	する
サービスパックの適用	しない
ብንአ ፦	Windows

[コンピュータの役割] 画面にある [終了] をクリックすると、その後の設定 はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行い ます。 11. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付 されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに 従って操作してください。

「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスク ドライブに挿入してください。 OK 終了	
本機能を使用する場合は、フロッピーディ チェックのみ使用できます。	スクドライブが接続されている装置

12. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合 は、メッセージが表示されます。

メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブから取り出します。この時セットアップパラメータFDを使用している場合は、フロッピーディスクドライブから取り出します。Windows XP CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約] 画面が表示されます。

14. よく読んでから、同意する場合は、[同意します] をクリックするか、<F8>キーを押す。 同意しない場合は、[同意しません] をクリックするか、<F3>キーを押す。

?					
?					

同意しないと、セットアップは終了し、Windows XPはインストールされません。

Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

- 15. 基本情報で「サービスパックの適用」を「する」にした場合は、次の操作をする。
 - (1) メッセージに従ってバックアップCD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。
 - メッセージに従ってWindows XP Service Pack 2 以降のCD-ROMを光ディス クドライブにセットする。
- 16. Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報] ウィンドウが表示されます。必要に応じて、使用者名と会社名を再入力してください。

セットアップ情報	
使用者名と会社名を入力してください。 日本語も入力できます。	
使用者名	
	ок
会社名 [company]	キャンセル

- インストール中にスクリーンセーバが起動する場合がありますが、手動でログオンしてください。
 上記の画面が表示されていない場合は、システムを再起動してください。再起動後、シームレスセットアップが続行され、上記の画面が表示されます。
- 17.18ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
- オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オ プションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
- 19.31ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。
- 20. 必要に応じて、「ステップ バイ ステップ インタラクティブ (SBSI)」 をインス トールする。

SBSIはWindows XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を使用し、簡単で使いやすい学習環境が用意されています。

SBSIは、以下の方法でインストールできます。

- (1) SBSI CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- (2)「<CD-ROMのドライブレター>:¥setup.exe」を実行する。
 メッセージに従ってインストールを行ってください。
- (3) 29ページを参照し、システムのアップデートを行う。
- 21. 42ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順で セットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラ を利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容 量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどを行う場合は、次 の手順でセットアップしてください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3.へ進んでください。

- 3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。
- 4. 以下の設定でシームレスセットアップを実行する。
 - 「パラメータファイルを使用する」に設定する
 - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

ー [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されている ドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。 5. シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

大容量記 憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスク ドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

マニュアルセットアップ

● Windows Vistaの場合

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。

マニュアルセットアップでWindows Vista Business をインストールする方法については、 EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Business インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

● Windows XP x64 Editionの場合

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。 マニュアルセットアップでWindows XP x64 Editionをインストールする方法については、 EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professional x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、 あらかじめEXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

● Windows XPの場合

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、保守用パーティションを確保しないでオペレーティングシステムをインストールするなど、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずに Windows をインストールする方法については、 EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめ EXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

- 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセット アップを開始する。
- 2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセット アップを続行する。

以上で完了です。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。 ご注意ください。

- [スタートメニュー]から[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コン ピュータの管理]を起動する。
- 2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
- 3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの 変更]を選択する。
- 4. [変更]をクリックする。
- 5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
- 6. [OK]をクリックする。

7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことが あります。このドライブ文字を変更しますか?

8. [コンピュータの管理]を終了する。

以上で完了です。